

ライフケアガーデン熱川 本館

症 例 概 要 利用者：80代 女性 要介護2

病名 ：アルツハイマー型 認知症、緑内障

都内出身。2度の離婚を経験後、1990年頃に子供と共に伊豆へ移住。子供たちが自立後は独居にて生活していた。2024年9月頃より急激に認知機能が低下し、火の不始末や飼い猫を探して夜間外出し警察に保護されることが度々みられるようになる。介護のために自宅から通っていた次女の負担が増大し、担当ケアマネジャーから相談を受けたことで2026年2月当施設へ入居となる。入居後は帰宅願望が強く、警察へ通報しようとする、窓から館外へ出ようとする、窓ガラスを叩き割るなどの危険行為を伴う不穏状態が続いていた。

不穏が強くみられていた入居者さんが、職員の傾聴と生活歴を活かした関わりによって、安心感を得て笑顔で過ごされるようになった事例。

内 容

入居後、氏は帰宅願望が強く、「家に帰るからタクシーを呼ぶ」「娘がここへ押し込めたから警察を呼ぶ」と繰り返し訴えていた。トイレの窓から館外へ出ようとする、ゴミ箱で窓ガラスを叩き割る等の危険行為もみられ、安全面でのリスクが高い状況であった。

職員は直ちに生活環境を見直し、センサーや見守りカメラを活用しながら安全を最優先とした対応を実施した。同時に、不穏の背景にある不安や混乱に寄り添うため、傾聴を基本とした関わりとユマニチュードケアとともに、家族とも密に情報共有を行った。家族との連絡の中で氏が幼少期からピアノに親しみ、飼猫を大切にされていたことが分かった。そこで、施設内のピアノに触れていただく機会を設け、食事席を見直して猫好きな入居者と同席し食事前に猫の動画を楽しむ時間を作った。

看護職員は精神状態を継続的に観察し、熱川温泉病院と連携しながら必要に応じて服薬調整を実施。介護職員は季節のレクリエーションを案内し、食養科職員は調理レクリエーションで盛り付けを案内する等、多職種で信頼関係の構築に努めた。

結果、不穏な言動や危険行為は減少し、穏やかな表情で過ごされる時間が増えた。同フロアの入居者が米寿を迎えた際、ピアノ演奏を提案したところ快く引き受けて米寿祝いに花を添え、演奏後には冗談を交えながら笑顔を見せられた。また、誕生日では職員からのお祝いに笑顔を浮かべ、和やかに会話を楽しまれた。

傾聴と入居者さんの生活歴や特技を活かした関わりを続けたことで、安心感と笑顔につながった本事例をキラキラ介護賞に推薦する。

【多職種の間わり】

【看護】 精神状態や健康状態を継続的に観察し、不穏の出現状況や日内変動を把握。熱川温泉病院と連携し服薬管理を行うとともにユマニチュードケアを実践し、心身の安定につなげた。

【介護】 危険行為を未然に防ぐため看護職員と連携し見守りと効果的な声掛けを実施。傾聴を重ねながら安心できる関係づくりに努めた。米寿祝いではピアノ演奏を提案し氏が自分らしく活躍できる場を設けた。

【施設管理】 居室環境や共有スペースを整備し、安全で穏やかに過ごせる環境維持に努めた。

【食養】 クッキングレクを案内し、誕生日には手作りケーキの提供を通して生活意欲向上と食の楽しさを支えた。

【事務・営業】 家族と密に情報共有を行い、生活歴や特技を多職種へ共有することで、氏の安心と笑顔につながる支援を行った。